

ひまわり通信

№11 平成20年12月5日

新潟市立東青山小学校

校長 斎川 英子

児童数 610人

(231)9611 fax(231)9623

<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/>

<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/i/> (携帯用)

E-mail h-aoyama@niigata-inet.or.jp



東青山フェスティバル

12月2日、児童会の最大行事である「東青山フェスティバル」が、子どもたちの知恵と力を集めて盛大に実施されました。計画から準備、当日の運営、後片付けまで、すべて子どもたちの手で行われました。チームワークを発揮した見事な動きに脱帽です。

何が、子どもたちをこのように燃えさせるのでしょうか。

一つには、自分たちで考えて創り出すことの喜びでしょう。3年生以上の各学級では、出店を開いてお客を呼びます。魅力ある出店にしようと、知恵をしばります。当初は、意見が食い違って対立することもあったに違いありません。話し合って、みんなで納得し合って、本番を迎えたのだらうと思うと、一つ一つの出店がいとおしく、つい、それぞれの催し物に参加し、長居をしてしまいました。

子どもたちが燃えるもう一つは、伝統ある児童会の行事であるからでしょう。子どもたちは、前の年から翌年の「東青山フェスティバル」を楽しみにしているそうです。学年が進んだら、お化け屋敷をやりたい、劇をしたいなど、先輩のやっている姿を見て、自分たちの夢を育てているのです。



東青山フェスティバル2008 撮影 伊丹教頭

児童会祭り「東青山フェスティバル」の始まりは昭和56年12月です。今年で28回を数えることになります。

第1回は、東青山小学校の創立1周年を祝う児童会行事だったと記念誌に記されています。以来、子どもたちに脈々と引き継がれてきた児童会祭りです。きっと当時の子どもたちの思いも一緒に引き継がれていると思っています。

ひまわり児童会の誕生

「ひまわり児童会」の誕生は劇的なものでありました。

10月の竣工記念運動会でひまわりの種子と共に飛ばした風船が、北蒲原の谷あいの地区に住む相馬徳左衛門さんに拾われ、数枚の手紙をいただいた時は、全校で喜び合い励まされました。

昭和56年10月、相馬さんが丹精して育てた直径40センチにも及ぶ大きなひまわりの実2つと、それまでの記録写真を携えて、息子さんに連れられての来校は正に劇的でした。

(中略)

この年、児童会の名前の募集が行われました。圧倒的な票数で、「ひまわり児童会」と命名されたことから、相馬さんの行いが子どもたちの心をどれだけ強く打ったかが分かります。

また、児童会のマークもでき上がり、児童会のうた「ひまわりの子」も誕生しました。

創立1周年の祝いに「東青山祭り」も始まりました。(後略)

東青山小学校10周年記念誌より抜粋

「ひまわり児童会」の誕生にまつわる心温まるできごとです。今後も、東青山小学校で学ぶ子どもたちに大切に受け継いでいきたいと思います。

